



新入生歓迎号

Chapel News No.138

# 大学礼拝

第138号 東北学院大学 2017年4月1日

巻頭言



宗教部長  
野村 信

## 「作る、造る、創る」

「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。」（創世記一・三一）

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。新しい出発が喜びに満ち、希望にあふれたものでありますように！

ところで、みなさんは大学に入学されて最初はオリエンテーションの期間を過ごしていることと思います。良く準備して大学での学びと生活を確立しなければなりません。しばらくすると講義が始まります。サークルや諸団体の活動も始まります。気の合う友達もでき始めるでしょう。

さて、大学というところはどのようなところでしょう。もちろん講義に出席して単位を取り、四年後に卒業して社会に出ていく準備の時もありますが、何よりも「自分から作る」ところであると自覚してください。

では、一体何をやるのでしょうか。それは、一人で生活を始めた人は良く分かるように、まず朝ごはんを「作る」ことから始め

たわけです。次に大学では友達を「作り」始めたわけです。さらに講義ではノート「作り」を始めました。しばらくするとサークル活動などで自分が組織を「作る」一員だということに気が始めます。さらに大学四年間で様々な思い出を「作り」、さらに自分という人格が「作られていく」ことに気がきます。

こうして、大切な四年間を過ごして、社会に出ると誰もが「物づくり」に励むこととなります。商品を作る、販売網を作る。ある人は野菜やお米を作る。芸術家は作品を作る。作家は小説を作る。研究者は論文を作る。その内に、家庭を作る。料理を作る。子供を作る。家も作れば、資産も作るのです。こうして、誰しも自分の人生を自分で作っていくのです。

「使う」ことに夢中になっている現代こそ、「作る」大切さに気付かなければなりません。

聖書の最初、創世記には、神が世界を創造された時、それを見てとても喜んだとあります。「極めて良かった」とは、「非常に喜んだ」と換言することが出来ます。そこで、神に似せて創られた人間（創世記一・二六）もまた、何かを自分で創り出すと、最も素直に喜ぶことができます。

新入生のみなさん、そして新学期を迎えたいすべての人々は、新しく作り始めましょう。作る、造る、創る。神の眼差しのもとで、まず小さなことから自分の手で作り始めましょう。神は私たちを「作る」人間として創造してくださったのですから。

# 「激動の時代にキリストの教えを」



理事長・学長  
松本 宣郎

東北学院大学に入学なさった皆さん、お一人お一人に、心よりお祝いを申し上げます。神さまが皆さんを、この東北学院大学へと招き、迎えてくださったことを感謝し、うれしく思っています。

それにしても、大いなる激動の時代に皆さんは、大学生という人生の新しいステージに立つことになりました。一つには、世界状況の激変ということがあります。宗教上の対立と、豊かな国とそうでない国の格差の拡大を原因とする暴力と戦争の危険性が増しています。大きな政治的権力を持つ者が、その危険性をさらに大きくしようとしているかのようです。

二つには、SNSの浸透が示すITとメディアの急速な発展です。このことが一つ目の政治と経済上の危険性や混乱の情勢と関わって、人間の生活・行動のスタイルを変え、人間と人間との生き生きとした関係を壊していくように見えます。インターネットとスマホに時間を奪われ、人間たちは分断され孤立し、自分だけの世界にしか安全性を感じなくなっていく、それが

ひいては自分が受け入れたくない他者を「いじめ」ることにつながりかねなくなっています。

東北学院大学では、人は一人ではないこと、他者のことを思いやり、隣人が助けを必要としていないかどうか、の想像力を持たなければならぬことを学んで欲しいと願い、カリキュラムもキャンパスライフの学生支援体制も整えています。皆さんのこれまでの生活スタイルよりも広い世界が用意されています。心を広げてください。学生仲間にも、先生にも、事務の職員さんにも、アイコンタクトでほほえんでください。

東北学院はキリスト教を土台に建てられた学校です。礼拝とキリスト教の授業とが、カリキュラムとキャンパスライフの底流になると言ってもよいと思います。どんな学問も研究も人間の営みにちがいません。その人間の生き方を育てるのがキリストの教えなのです。上で指摘した、現代社会の深刻な危機的状況を理解し、それを克服していくためにも、東北学院大学の学びは大切です。



# 新入生たちへ



文学部総合人文学科卒

林 光志

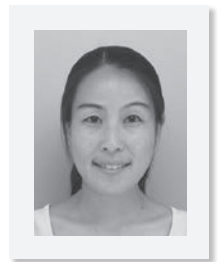
(総合商社に就職)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私はこの春に総合人文学科を卒業し、四月からは総合商社で営業の仕事に就きます。

私にとって、東北学院大学での四年間の学びは、社会に出ていくうえでとても大切なものを養い、自分自身の成長に繋がられたと思っています。それは、講義を通しての教養や深い知識を身につけることももちろんですが、教授や友達、部活動やサークルの仲間たちなど、多くの人と出会うことで、これまで見えてこなかった新しい世界が見えるようになり、私の「生き方」の選択肢を広げ「人としてよく生きる」ことなどを学びました。

新入生のみなさんに私から伝えたいことは一つです。四年間という長い学びの中で、できるだけ多くの人と出会い、沢山の言葉を交わして欲しいということです。人や歴史との出会いはとても価値のある「学び」です。

新入生の皆さんに、東北学院大学で良き「出会い」と「学び」があるよう心からお祈りいたします。



文学部総合人文学科卒

佐藤由子

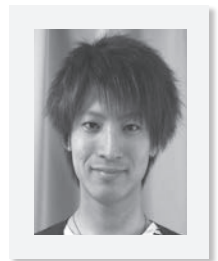
(神学校に進学)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しいスタートをきった皆さんは、どのようなゴールを目指して歩んでいるのでしょうか。芽をだしたばかりの皆さんは、四年後にどのような花になることを思い描いているでしょうか。毎日の礼拝を通して聞く聖書の言葉には「私にしか咲けない花」を開くためのヒントが隠されています。

四年間という時間は、あつという間に過ぎていきます。「今日」という日に目標を見つけ、高い志を持って勉学に励んで下さい。自由に学べる時と場所が与えられているということは、本当に大きな恵みです。また教室から離れ、自分の思いから離れて、自分を生かして下さっている神に出会う時間があることは、東北学院であるからこそその恵みです。

皆さんの歩みが豊かに導かれますように、心から祈ります。

「求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。」(マタイによる福音書七章七節)



キリスト教学科卒

石川 礎

(福祉施設に勤務)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は三年前に東北学院大学を卒業しました。

大学生活の四年間を振り返りますと、その日一日をどのように過ごすのか問われ続けた四年間だったように思います。何を学ぶか、誰と遊ぶか、何をするのか、日々選択の連続でした。

その中で助けとなったのが大学礼拝でした。毎日行われる礼拝において、日々の業務を中断し、静かに神の言葉に耳を傾ける時間。それは私にとってとても貴重な時間となりました。何より、悩んでいるときに参加する礼拝では必ず解決のヒントが与えられました。

勉学、サークル、アルバイトに追われる日々において、大学礼拝はみなさんにとって心落ち着かせるよいひと時となることでしょう。

最後になりますが、どうか身体を大切にしながら充実した四年間を過ごせるようお祈りしております。

# 新入生の皆さんへ

先輩たちの語る  
大学生活あれこれ

——新入生のこれからの大学生活のために、上級生の皆さんからアドバイスしてもらいたいと願い、サマーカレッジの開催中に、六人の上級生に自由に話してもらいました。

## ★大学礼拝について

——大学礼拝に出席した最初の印象はどうでしたか。

**三浦** 礼拝堂でオルガンが響き、讃美歌を歌うという経験は、すごく新鮮でした。一週間の六日間これがあるのかと思うとすごく嬉しかったです。最近は一週間に二回出席を目指していますが、今は行けない時もあります(一同笑い)。

**林谷** いや、私はちよつと戸惑いいますが、しばらくすると先生たちの話がためになると思つよつになりました。

**長谷部** 私は、高校がキリスト教主義だったのであまり違和感はありません。

**市川、吉田** カトリックのキリスト教の高校の出身なので、礼拝そのものはなれていましたが、礼拝のスタイルが違うのに少し戸惑いましたが、すぐ慣れました。

——全体的には、みなさん、大学礼拝

は好印象の様子でした。

## ★大学生活について

——続いて、大学生活については、どのように感じていますか。

**長谷部、幕田** 大学はとても自由だと思いますが、それだけに責任が重く、何でも自分から積極的に取り組まなければならぬ、自立へ向かう、最初のステップだな、と思います。

**林谷** 大学に入って独り暮らしをしています。なんとと言っても、友達と一緒に語らい、ワイワイと盛り上がるのが最も楽しい時だと思えます(一同、同感)。

**市川、三浦** 大学では、先生の世話や干渉がなく、指示が少ないので自由ですが、とても責任が重くなります。友人や身近な人々とのつながりが大切だと思えます。

——皆さん、大学生活を上手にエンジョイしているようです。

## ★講義について

——ところで、大学の講義はいかがですか。

**長谷部** 正直言って、九〇分の授業は長いです。受講生の多いクラスにもびつくりしました。講義を充実して受けるためには、前日は十分睡眠をとらない

と講義中眠くなりますね。

——そう、大学生活はとかく夜更かしすることが多いので、睡眠は大切ですよ。他の人は、どうですか。

**林谷** 先生方の講義は、人によってタイプが全然違って、板書の多い先生もいれば、口頭で講義する先生もいるし、こちらは講義にあわせて受講するのが大事かもしれない。

**三浦** それと、一応、大学は単位修得制なので、単位を取るという意識で、講義に臨むのも大切です。特に自戒を込めてですが(一同笑い)。

**市川、吉田** 先生に聞くというのも大切で、意外にしない人も多いのです。それと、先輩に聞くのも良いと思えます。学生目線も大事。

**長谷部** 教科書も先輩から借りたりできると。

## ★悩みなどについて

——大学に入りたての新入生には、不安なことも、悩みもあると思いますが、何か良いアドバイスありますか。

**長谷部、三浦** 友達がいないと卒業もできないですよ。同じ趣味の人とか、気の合う人を見つける事が先決です。

**吉田** 積極的に行動し、みんなと仲良くすることでしょう。まあ最初は、「長い物には巻かれる」という感じで(一同笑い)。

**幕田** まず同じ講義をとっている人と、親しくすることでしょうね。

**林谷** 長谷部君と料理サークルに入っているのですが、一緒に料理を作ると友達ができるし、楽しいうえ、最後に料理を食べられる。独り暮らしをしている者には助かる(一同、同感)。

**長谷部** 人から話しかけられて友達ができたので、そう考えれば、自分から人に話しかけることで、友人は作れるものだと思いますよ。オリエンテーション・リーダーをしました。そのことから学ぶことが多かったと思います。

——みなさん、大学生活のコツをつかんで、楽しんでる様子です。今日は、取材協力ありがとうございました。(文章は短くまとめました。野村)



出席者

市川 君 (文学部四年)、長谷部君 (文学部四年)  
吉田さん (法学部四年)、三浦 君 (法学部四年)  
幕田さん (教養学部四年)、林 谷 君 (経営学部四年)



## 聖歌隊より皆様へ♪

### 〈奏でるハーモニー〉

宗教部・聖歌隊



バイトやサークル、講義をどうしよう……  
大学生活では、今まではガラリと異なる冒険が皆さんを待っていることでしょうか。その新たな一歩を私たちと一緒に踏み出しませんか。

聖歌隊と聞くところのようないメージが思い浮かぶでしょうか？ 厳格で洗練された礼拝堂、映画『天使にラブ・ソングを』、はたまた、オリエンテーション期間中に何度も聞いたあの賛美歌を思い出すかもしれません。しかし皆さんが身構えているほど難しいものではありません。

実は、皆さんの身の回りに賛美歌の片鱗が溢れていることもしばしば。例えばクリスマス時期には欠かせない「きよしこの夜」は賛美歌一〇九番に含まれており、他にも一〇三番や一一二番などは聞いたことがあるはず。さらにクリスマス礼拝ではヘンデル作メサイアの「ハレルヤ」が登場。その壮大な調べに心を躍らせ誰もが口ずさむ名曲を我々と共に歌いませんか？

現在聖歌隊は男女一七名で活動しています。二〜四年生まで幅広い学部が所属しており、バイトや学業と両立させています。聖歌隊室は講義棟エリアに近い礼拝堂の下に位置し、他団体と活動する機会があります。(写真は昨年のクリスマス礼拝の様子です。)  
さあ、まずは気軽にお越しください。あなたも爽やかな学生生活を送りませんか。体験入部やイベントなどをご用意しておりますので新入生はもちろん、上級

生の皆さまもご参加下さい。

choirigu@gmail.com 本ページ質問・ご連絡お待ち

しております。(執筆 代表 津島菜摘)

### 〈歌う喜びを共に〉

聖歌隊指導者 中川郁太郎



皆さん、はじめまして。聖歌隊の指導をしている中川郁太郎です。宗教部聖歌隊には、とにかく歌うことが大好きなメンバーが集まり、毎週木曜日の十五時から、泉キャンパス礼拝堂階下の音楽室で楽しく歌っています。

歌は、世界のはじめから人間と共にあった、最もシンプルで楽しい音楽です。ただメロディを口ずさむだけで、不思議に心の悩みが消え、身体が解きほぐされ、「歌う喜び」に満たされる……という経験をした人も多いでしょう。この「歌う喜び」を、数十人、数百人、ときには数千人の人々で分かち合うのが「合唱」です。この東北学院大学で、一人でも多くの皆さんと「歌う喜び」を共にしたいと思っています。聖歌隊の練習は時間をかけて、丁寧に進めていますので、楽譜が読めない人、合唱で歌った経験のない人でも大丈夫です。私たちと一緒に歌いませんか？

私は、大学では「混声合唱」と「キリスト教と音楽」の授業を担当します。また普段は、礼拝堂の一階の練習室(中川)の部屋にいます。歌のこと、音楽のこと、話したいことがある人は、いつでも訪ねてください。お待ちしております。

# 大学礼拝について知っておきましょう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には必ず出席しましょう。皆さんの学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝より短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的なことをお伝えします。

## <前奏>

Prelude

第1校時が午前10時20分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまって、心を静めて礼拝に備えましょう。

## <讃美歌>

Hymn

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

## <聖書>

Bible

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なすべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

## <説教>

Preaching

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教」は、「聖書を説いて教える」とことと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の貴い愛」を知ることです。

## <祈祷>

Prayer

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

## <頌栄>

Doxology

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

## <後奏>

Postlude

オルガンの後奏は、「世へ派遣」を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。

(執筆 宗教部長 野村 信)

# 学生の皆さん



昨年度、大学礼拝を担当された先生方、今年度、担当される先生方をご紹介します

本学の大学礼拝を担当している先生方は、宗教部の先生たちや各学部にも所属するキリスト者の先生たちです。みなそれぞれの専門分野で活躍されており、礼拝では多様に聖書を説き明かされます。

●佐々木哲夫先生(院長…前列中央)

旧約聖書の専門家で、前宗教部長です。

本学の宗教部の活動を長く牽引されてきました。

●野村 信先生(宗教部長…前列中央右隣)

十六世紀のジュネーヴの宗教改革者・カルヴァンの研究が専門です。中世哲学も教えています。

●出村みや子先生(総合人文学科長…前列最右)

古代のギリシア教父オリゲネスの研究がおもな専門です。ギリシア文学についても造詣が深いです。

●星宮 務先生(工学部非常勤講師…前列中央左隣)

工学部電子工学部の教授をこの春に退官されました。専門は、応用物理学です。長きに亘って工学部の礼拝を担当してくださいました。感謝です。

●鐸木道剛先生(大学宗教主任…前列最左)

キリスト教美術が専門で、正教会のイコン(聖像)

をはじめ、東欧の芸術にも精通しています。

●阿久戸義愛先生(大学宗教主任…後列最右)

二〇世紀の神学者カール・バルト研究がおもな専門です。柔らかな語り口調が好印象です。

●原田浩司先生(大学宗教主任…後列右二)

スコットランド宗教改革や長老教会の研究が専門です。宗教部の書記を担当しています。

●松谷基和先生(教養学部准教授…後列右三)

韓国・朝鮮の言語と文化が専門です。

●長島慎二先生(工学部准教授…後列右四)

流体工学が専門です。旭ヶ岡寄宿舎舎監も兼任。

●大澤史伸先生(教養学部准教授…後列右五)

社会福祉学が専門です。

●中川郁太郎先生(宗教音楽研究所員…後列右六)

聖歌隊など、合唱の指導を担当しています。専門は、教会音楽の研究です。昨秋に就任しました。

●北 博先生(大学宗教主任…後列右七)

旧約聖書の研究がおもな専門です。中東だけでなく、フィリピンなどアジアへの関心も高いです。

●藤原佐和子先生(大学宗教主任…後列最左)

専門は、エキユメニカル神学です。タイにおける女性とキリスト教の問題についても研究中です。

なお、写真に掲載されていない先生方で、学長・松本宣郎先生を始め、若手の大学宗教主任・吉田新先生がいます。吉田先生は新約聖書の研究を専門とし、聖書翻訳事業にも携わっています。

今回は、礼拝を担当するすべての先生たちを紹介できませんでしたが、学内の先生たちと近隣の多くの教会の牧師の方々によって、毎日の大学礼拝は行われています。

皆様、本当にご苦勞様です。今年度もよろしくお願ひいたします。(執筆 野村 信)



## 第12回 「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト  
今井奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンを用いて指導します。単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせて、希望のキャンパスで受講することができます。

- ◆ **受講資格**
  - ・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
  - ・レッスン、練習に励む意思のあること
- ◆ **対象**
  - ・本学に在籍する学生
  - ・(所属学部、学部生・大学院生を問わず)
- ◆ **内容**
  - ・オルガンの奏法と作品を学ぶ
  - ・(個人またはグループレッスン形式)
  - ・ガイダンスと修了演奏会を実施します。

- ◆ **場所**
  - ・土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂
- ◆ **受講料**
  - ・年間一五、〇〇〇円
- ◆ **期間**
  - ・五月～十二月(レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)
- ◆ **募集人数**
  - ・各キャンパスにつき若干名
- ◆ **講師**
  - ・小野なおみ
  - ・(礼拝オルガニスト)
  - ・今井奈緒子
  - ・(教養学部教授、大学オルガニスト)
- ◆ **ガイダンス開催日**
  - ・受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月十一日(木)十六時に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂一階)の前へ集まってください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスンの相談、調整等を行います。
  - ・出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください(022-375-1185)。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます場合があります。

## 宗教部 聖歌隊へのお誘い

みなさん、一緒に歌を歌いませんか。中学、高校とみんな合奏する楽しさを味わった人は大勢いると思います。大学でもぜひ一緒に楽しく歌いましょう。本学の「聖歌隊」は、長く親しまれてきた合唱曲や宗教音楽、また讃美歌を歌い、定期演奏会で発表したり、クリスマスにメサイアを歌ったり、と楽しい企画が幾つもあります。ボイストレーナーの先生がしっかり指導してくれます。秋に合宿の計画もあります。歌うことの好きな方は大歓迎です。今年度の第一回の会合は、四月十一日(火)のお昼休みに礼拝堂の一階の聖歌隊室で行います。以後、火曜日のお昼休みの「火曜練習日」と木曜日の午後三時からの「木曜練習日」に練習します。是非、参加しましょう。



前列左から 長谷部真理子先生、日野百合子先生、菅原淑子先生、今井奈緒子先生(大学オルガニスト)、坂上美美恵先生  
後列左から 渡辺真理先生、加藤晶子先生、今高和枝先生、大泉真理先生、京極扶美恵先生、阿部和子先生

## 2017年度 礼拝オルガニストのみなさん

## 編集後記

新入生の皆さん、緑の広がる両キャンパスで良く学び、語り、楽しい大学生活を送ってください。毎日行われる大学礼拝への出席を大切にして、心の養いをしてください。貴重な時になると思います。なお、今夏の八月七日、八日に一泊二日で開かれるサマー・カレッジは、「ルターと今日」を主題にします。今年は宗教改革者ルター

五百年祭です。詳細は礼拝堂の入り口に七月初旬にチラシを準備します。ので、それをご覧ください。誰でも奮って参加してください。

二〇一七年四月一日  
東北学院大学宗教部  
編集 野村 信  
〒九八〇-八五一  
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号